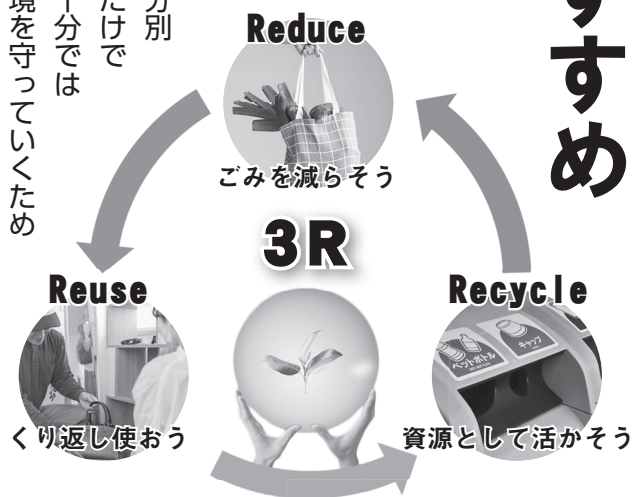


「もったいない」の気持ちが大切
暮らしの中で実践！
スリーアール

10月3R推進月間です。
3Rとは、リデュース、リユース、リサイクルの3つの頭文字をとったものです。
私たちがいつも行っているペットボトルの分別などの「リサイクル」だけでは、ごみを減らすには十分ではありません。地球の環境を守っていくためには、まず、ごみそのものをできるだけ出さない工夫をする「リデュース」、そして物を繰り返し長く使う「リユース」が大切になります。

家庭から出るごみの中には、まだ使える物や工夫次第で減らせる物がたくさんあります。私たちが物を大事にして長く使うこと、限りある資源を大切に使うこと、分別を行いごみを減らしていくことが、未来の子どもたちの生活を守ることに繋がります。

10月の「3R推進月間」をきっかけに、ぜひ「もったいない」の気持ちを思い出し、家庭や職場など、身近なところから3Rに取り組んでみましょう。



Reduce ごみを減らす 「リデュース」から始めよう

ごみを出さないように工夫することは、資源を守り、環境への負担を少なくする第一歩になります。少しの心がけで、家庭から出るごみの量をぐっと減らすことができます。

- ▶ 買い物のときにマイバッグを持参し、レジ袋を減らしましょう
- ▶ ペットボトルの飲み物を買う回数を減らし、マイボトルを使いましょう
- ▶ 使い捨ての商品よりも、長く使える物を選びましょう
- ▶ 必要以上に食品を買わず、食べきれる量を工夫しましょう

Reuse 大切に使う 「リユース」を心がけよう

物を長く大事に使い、捨てずに活かす取り組みです。まだ使える物を手放さずに活用すれば、ごみの量を減らすだけでなく、資源の節約にもつながります。

- ▶ 壊れた物は修理して使いましょう
- ▶ 子どもの服やおもちゃをお下がりに活用しましょう
- ▶ 使わなくなった衣服や家具、家電でまだ使えるものは、リサイクルショップに持ち込みましょう

Recycle 資源を活かす 「リサイクル」に取り組もう

資源として再利用するリサイクルは、分別して集めたごみを再び資源に戻すことです。家庭で分別を正しく行うことで、ごみは新しい資源としてよみがえり、環境を守る大きな力になります。

- ▶ ペットボトルや空き缶を分別して資源ごみに出しましょう
- ▶ 生ごみをたい肥化して家庭菜園に活用しましょう

◎資源ごみは指定袋に分けるとなぜひリサイクルになるの？

▷資源ごみは指定袋で出されると、さくら環境センターで選別処理した後、各資源物としてリサイクル事業者に回収されるからです。

資源ごみを燃えるごみ袋や燃えないごみ袋に入れて出したときは資源物の分別ができないため、そのまま燃やされたり、細かく砕かれたりして埋め立て処分され、リサイクルの対象となりません。

ご迷惑をおかけします

11月3日(月)から7日(金)までの間

燃えないごみと粗大ごみの収集は中止します

ごみ処理場(さくら環境センター)の機械設備保守点検を行うため、11月3日(月)から7日(金)までの間、燃えないごみ(半透明のごみ袋)と粗大ごみ(黄色のシール)の収集を中止します。期間中、対象のごみは、ごみ処理場への直接搬入もできません。

☎ 役場福祉環境課環境保全係 (☎ 82-1232)

にぎわいづくりを応援！

助成金を活用して 「みんなでまちづくり」



地域の「にぎやか」づくりを行う団体や、住みたくなる町と一緒に作ってくれる団体を応援するため「みんなでまちづくり活動助成金」を交付しています。助成活動対象は団体規模や会則の有無で2種類に分け、どなたでも交付を受けやすくなっています。助成金を活用して、地域から「添田町」を一緒に盛り上げましょう。

☎ 役場まちづくり課政策企画係 (☎ 82-5965)

◎助成対象活動

	小さな活動	大きな活動
対象団体	▷18歳以上の構成員が5人以上 ▷構成員全員が添田町在住	▷18歳以上の構成員が5人以上 ▷構成員の過半数が添田町在住・通学・通勤 ▷会則がある ▷拠点が町内にある
助成金交付額	上限5万円	上限20万円
助成金交付回数	1団体1回	1団体1回
申請に必要な書類	▷申請書 ▷構成員名簿 ▷事業計画書 ▷予算書	▷申請書 ▷会則 ▷会員名簿 ▷事業計画書 ▷予算書

◎申請期限

12月26日(金)
※予算の執行状況により期限前に締め切ることがあります。

◎助成対象活動例

▷花いっぱい運動 ▷地域のイベント企画 ▷地域についての勉強会 ▷農林業体験 など

◎助成対象経費

▷講師の謝金と旅費 ▷消耗品費 ▷スポーツ・ボランティア保険代 ▷公民館の使用料 など



詳細はホームページで確認ください

助成金でこんな活動しています！！

大きな活動

自然を学ぶ！スジエビ捕獲と天ぷらづくり アカザを守る会

児童を対象に町に生息するスジエビを捕まえ、天ぷらにして食べることで、自然に触れながら食育を学ぶ活動が開催されました。参加した児童は添田公園不動池で上手に網を使いスジエビを300匹ほど捕まえます。捕獲後はフォレストアドベンチャー・添田に移動し、自然のフシギや普段の生活に絡めたワンヘルスについての話を聞き、栄養士指導の下、スジエビを天ぷらにして食べました。小さくても旨みが溢れるスジエビに参加者は舌鼓を打っていました。



小さな活動

みんなの食堂実行委員会

交流で笑顔がひろがる「みんなの食堂」

町の皆さんの笑顔が増え、参加者がお互いを見守り、助け合う関係を築くことを目的に「みんなの食堂」が8月1日、オークホールで開催されました。大人から子どもまで事前申込をした約100人が参加し、食進会の協力でカレーがふるまわれました。主催した角崎さんは「みんなの食堂が皆さんの憩いの場となり、心と体の栄養を補給し明日からの活力になってくれれば」と話していました。



小さな活動

伊原盆踊り世話人会

地域に元気を！伊原でにぎやか盆踊り

地域で交流する機会や場が減少している中、「少しでも地域を元気にしたい」とそんな思いを持つ有志が集まり伊原地区で盆踊り大会が開催されました。「楽しむ」をテーマに開催された大会は、シャボン玉飛ばし、輪投げなどの催し物も用意。伊原盆口説き同好会の軽快な口説きに合わせ子どもからお年寄りまで参加者が楽しく踊り、笑顔の絶えない盆踊り大会となりました。

